

船津秀樹名誉教授記念号及び 和田良介名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 穴 沢 眞

この度、船津秀樹名誉教授記念号及び和田良介名誉教授記念号が刊行されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

船津秀樹名誉教授は1979年に北海道大学経済学部をご卒業され、その後、米国のサザンメソジスト大学大学院と北海道大学大学院経済学研究科にて修士課程を修了され、最終的に1984年にサザンメソジスト大学において経済学の博士号を取得されました。サザンメソジスト大学ではTAを経験され、1984年7月に経済学科の講師として本学に赴任されました。その後、1986年10月に助教授、1996年10月に教授に昇任されました。2019年に退官されるまで35年にわたり本学の発展にご尽力頂きました。

先生のご専門は国際経済学であり、輸出保険やフリー・トレード・ゾーンなどを含め多くの論文を書かれておられます。教育面に目を向けますと学部では「国際経済論」、「貿易政策」などを担当され、大学院では「アジア太平洋地域協力」、「国際経済学」、「国際ビジネスの経済分析」などの科目を担当されました。研究指導を受けた学部生は300名を超え、この数だけを見ましても船津先生が本学の教育に如何に貢献されたかがわかります。『緑丘』のゼミナール紹介からも、多くの学生が殺到した人気ゼミであったこと、やさしさと厳しさを兼ね備えた指導をされ、多くのゼミ生に慕われていたことがうかがえます。また、協定校からの交換留学生を受け入れるための短期留学プログラムの創設にご尽力されました。これは全国的にも早期の導入であり、本学の国際交流の先駆けとなったものです。

先生の国際交流におけるご貢献は特筆すべきものがあります。前述の短期留学プログラムの創設以前に本学の最初の協定校となるニュージーランドのオタゴ大学との協定締結に始まり、初期の協定校との交流のほとんどに関わり、1998年から2000年にかけては国際交流センター長の重責を担われました。また、2016年から2018年にかけてはグローバル戦略推進センター、グローバル教育部門長としてグローバル・マネジメント副専攻の導入やギャップ・イヤーの導入を推進されました。本学の国際交流の骨格は船津先生によって形作られたと言っても過言ではありません。

先生はスポーツマンでもあり、バトミントン部の顧問に就任されると早速、学生とバトミントンで汗を流したと聞いております。また、おたる運河ロードレースの常連でもあり、これは和田良介名誉教授とも共通するところです。

和田良介名誉教授は1978年に早稲田大学政経学部経済学科をご卒業され、一旦、銀行に勤められました。その後、1983年に米国コーネル大学にて経済学修士を修了され、1992年にはニューヨーク州立大学で経済学博士を取得されました。ニューヨーク州立大学では在学中からTAやインストラクターを務められ、1992年4月に経済学科の講師として本学に赴任されました。その後、1993年には助教授に昇任され、2007年に教授に昇任されました。この間2009年から1年間経済学科長の重責を果たされ、本学の運営にも関わって頂きました。2018年3月に退職された後も特任教授として2020年3月まで本学の教育研究にご尽力頂きました。

先生のご専門はファイナンスであり、外国為替市場に関する分野を中心に研究され、多くの論文を刊行されました。学部では「金融経済論」、「現代ファイナンス理論」などの科目を担当され、ゼミに集まった意欲ある学生たちの能力を引き出し、ゼミ生が共同で作成した卒論は本学主催の学生論文賞に何度も入賞しています。また、交換留学生向けの短期留学プログラムにもご尽力頂き、「経済学特別講義」や「短プロゼミ」を開講され、本学の国際化にもご貢献頂きました。さらに大学院においても二名の短プロ修士の指導教員となったほか、

博士前期課程では「金融経済学」を、博士後期課程では「現代ファイナンス特論」を担当されました。

先生はスポーツを愛され、スキーやテニスを楽しまれましたが、特筆すべきはマラソンであり、おたる運河ロードレースの常連であるだけでなく、交換留学生や本学の学生のこの大会のまとめ役としても活躍されました。研究のみならず、留学生と本学の学生とのスポーツを通じた交流への貢献は和田良介先生の真骨頂といえます。

お二人の先生は、残念ながら、教授としては本学をご退任されましたが、今後とも名誉教授として本学へのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、両先生の長きにわたる本学へのご貢献に感謝申し上げますとともに、一層のご活躍を祈念しております。